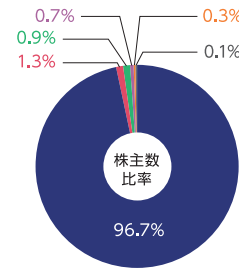
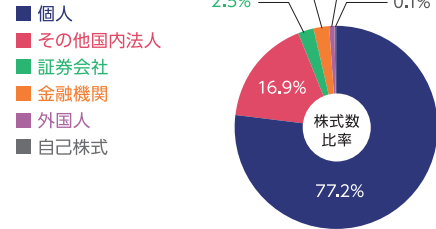


株式の状況 (2024年10月31日現在)

発行済株式の総数 1,767,104株 (うち自己株式 1,337株)

株主数 1,908名

株式・株主分布状況



会社概要 (2024年10月31日現在)

商号 株式会社オービス
設立 昭和34年(1959年)11月
資本金 703,974,583円
従業員数 186名
(外、平均臨時雇用者18名※1日8時間換算)
本社所在地 広島県福山市松永町六丁目10番1号
監査法人 有限責任 あずさ監査法人



役員 (2025年1月30日現在)

代表取締役社長	中浜 勇治
専務取締役	梅田 孝史
常務取締役	谷本 泰
取締役	井上 清輝
取締役	土田 光典
取締役	川岡 公次
取締役	玉田 龍治
取締役(社外)	小山 幹夫
常勤監査役(社外)	松村 清治
監査役(社外)	長井 紳一郎
監査役(社外)	近藤 哲英

 **株式会社オービス**
〒729-0104
広島県福山市松永町六丁目10番1号
TEL 084-934-2621
URL <https://www.orvis.co.jp>

大株主 (上位10位) (2024年10月31日現在)


株主名	持株数(株)	持株比率(%)
中浜 勇治	293,976	16.65
(株)和 幸	164,300	9.30
中浜 勇	142,937	8.09
肥田 亘	50,000	2.83
藤井 實	45,000	2.55
鹿野産業(株)	44,900	2.54
大阪中小企業投資育成(株)	44,000	2.49
宇藤 秀樹	41,900	2.37
山本 康司	40,000	2.27
中山 恒一	28,100	1.59

(注)持株比率は、自己株式1,337株を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度	毎年11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	毎年1月開催
一単元の株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年10月31日 期末配当 毎年10月31日 中間配当 毎年 4月30日
公告の方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法で行います。 [公告掲載URL] https://www.orvis.co.jp/ir_advertising/
上場証券取引所	東証スタンダード市場
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-288-324

 **UD FONT**
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを使用しています。

 **株式会社オービス**
証券コード:7827

ORVIS

第65期 株主通信
2023年11月1日～2024年10月31日

Contents	
トップインタビュー	1
セグメント別概況	3
トピックス	5
株式の状況・会社概要	7



2024年3月、重量鉄骨及びその他の鋼構造物の製作を行う寿鉄工株式会社(ハウス・エコ事業セグメント)が当社グループに仲間入りしました。従来のプレハブハウスに加えて、重量鉄骨建築においても設計・鉄骨製作・現場施工・引渡しまでのワンストップサービスを提供し、新たな価値を創造することでより一層お客様の要望に応じてまいります。

代表取締役社長
中浜 勇治

NEW START

寿鉄工の仲間入りを
オービスグループの新たなスタートに

Q.1 2024年10月期の業績はいかがでしたでしょうか。

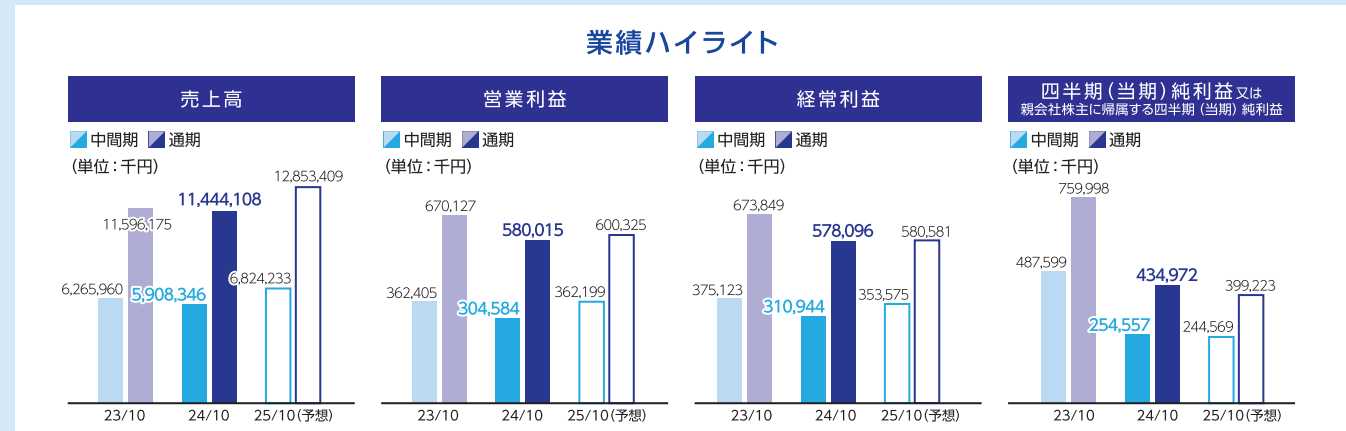
株主の皆様には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当期(2023年11月1日~2024年10月31日)の概況をご報告させていただきます。売上高は114億44百万円、営業利益は5億80百万円となりました。当期は、事業の選択と集中を推し進め、中期経営計画[NEXT STEP 10]の達成に向けた新たな一歩を踏み出しました。2024年2月に2棟の賃貸用不動産を売却し、不動産事業から撤退、同年3月には、Hグレード認定工場を保有する寿鉄工株式会社(ハウス・エコ事業セグメント)を当社グループに迎えました。今後の成長戦略をより確実なものにするためには、重量鉄骨分野の強化が不可欠であることから、同社の技術力を継承するための人材確保や将来を見据えた内製化強化のための先行投資に着手いたしました。短期業績の着実な成長とともに、株主・投資家の皆様から中・長期目線での成長に対するご期待をいただけるよう取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q.2 2025年10月期の業績見通しについて教えてください。

2025年10月期は、増収・増益を予想しております。主力の木材事業においては、低迷する木材市場全体の回復が短期的には見込めないことから、集成材の材料として国産スギ材を用いた非住宅(事業用建物)分野の営業活動を引き続き強化してまいります。また、製材ラインの渋滞解消に向けた設備投資の実施により、更に生産効率を改善し、原価低減を図ってまいります。ハウス・エコ事業においては、子会社化した寿鉄工株式会社の生産能力増強を図るとともに、重量鉄骨案件の内製化による利益率の向上に取り組んでまいります。また、市場動向や顧客ニーズに即応できる体制を整備し、迅速な情報収集力の充実を図るとともに、グループ各社間の連携を強化し、グループ各社の協業化・相互支援体制の確立によりシナジー効果を引き出し、事業の拡大と効率化を目指してまいります。その結果、売上高は128億53百万円、営業利益は6億円を予想しております。

Q.3 株主還元について教えてください。

2024年10月期の年間配当額は1株当たり67円とさせていただきます。2025年10月期から、業績の変動に左右されない最低限の配当を20円に引き上げ、配当の原資を税引後経常利益から親会社株主に帰属する当期純利益に変更し、連結配当性向25%を目安に安定的な配当を継続的に実施していくことを基本的な方針といたします。これにより、2025年10月期の年間配当金は57円とさせていただきますが、業績の向上により前年を下回らない配当を実施(増配)できるよう努めてまいります。

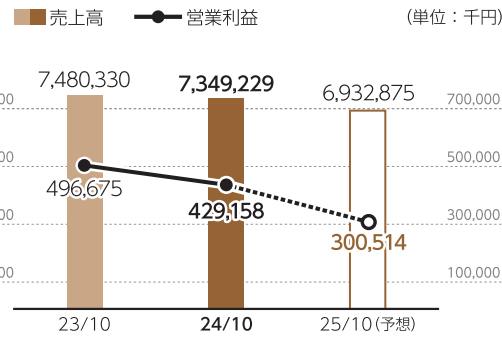


セグメント別概況

※営業損益につきましては、全社費用等配分前で記載しております。

※当社は、2024年10月期第2四半期決算より連結決算に移行しました。従いまして2023/10は個別数値(参考情報)を、2024/10、2025年度(予想)は連結数値をそれぞれ記載しております。なお、参考情報として対前期の増減額を記載しております。

木材事業

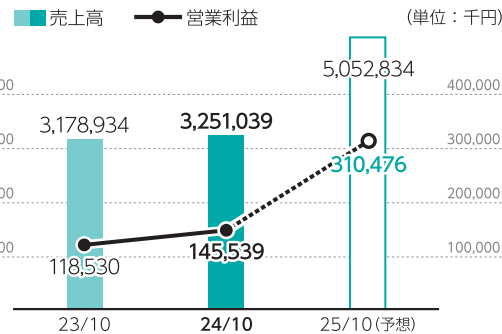


中国経済の低迷により木材需要は低下、工場稼働率の維持を最優先としたため、製品出荷量は若干増加。その反動により商品販売量は減少。

引き続き中国経済の低迷により梱包用木材市場の短期的な回復は見込めないことから、建築物の木質化などで成長が期待される非住宅木材市場へ販路を拡大。

項目	2024年度(実績)	2025年度(予想)
売上高	7,349,229千円 (対前期 ▲131,101千円) ▼	6,932,875千円 (対前期 ▲416,354千円) ▼
営業利益	429,158千円 (対前期 ▲67,516千円) ▼	300,514千円 (対前期 ▲128,644千円) ▼

ハウス・エコ事業

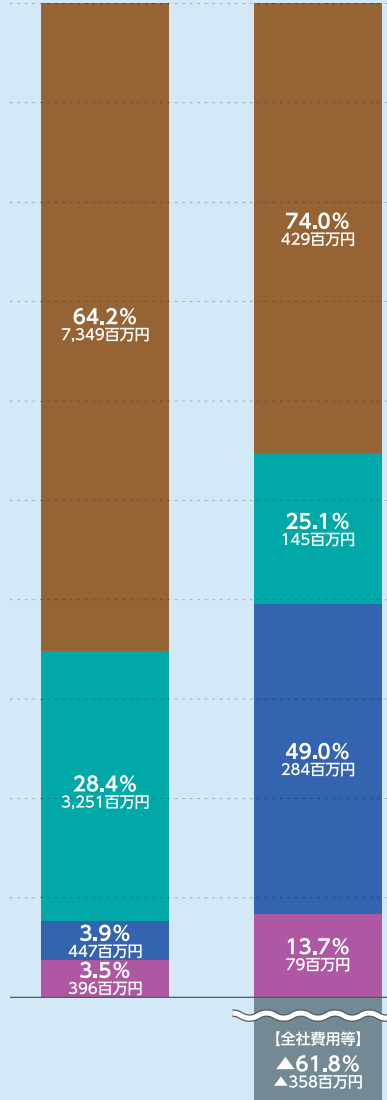


鋼材や人件費など高止まりする建築コストに対し、価格転嫁を推し進め、利益率が改善。2024年3月に重量鉄骨の製造・販売を担う寿鉄工株式会社を子会社化。

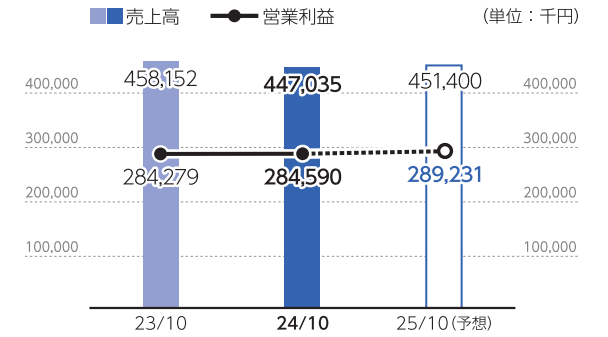
オービス及び寿鉄工の受注が堅調に推移。重量鉄骨規模の売上増加を見込み、中期経営計画の単独事業の目標値を上回る見込み。

項目	2024年度(実績)	2025年度(予想)
売上高	3,251,039千円 (対前期 +72,105千円) ▲	5,052,834千円 (対前期 +1,801,794千円) ▲
営業利益	145,539千円 (対前期 +27,008千円) ▲	310,476千円 (対前期 +164,936千円) ▲

売上高 11,444 百万円 営業利益 580 百万円



太陽光発電売電事業

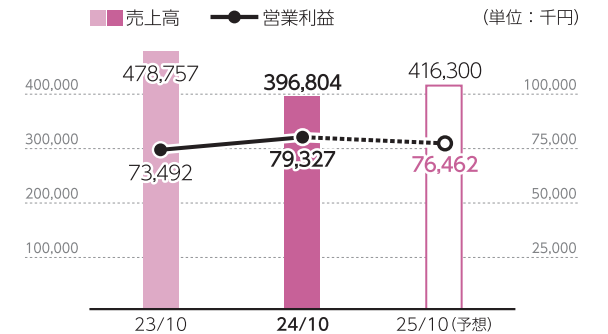


夏季の猛暑や台風など、発電量が盛んな時期の悪天候により発電効率が低下。パワコンの交換などメンテナンスを実施したものの、減価償却費の減少により利益は横ばい。

パワコンの交換など引き続きメンテナンスを実施し、安定的な発電に努めることでほぼ横ばいの収益を見込む。

項目	2024年度(実績)	2025年度(予想)
売上高	447,035千円 (対前期 ▲11,117千円) ▼	451,400千円 (対前期 +4,364千円) ▲
営業利益	284,590千円 (対前期 +310千円) ▲	289,231千円 (対前期 +4,640千円) ▲

ライフクリエイト・不動産事業



ゴルフ場部門において、来場者数は若干減少したものの、料金体系の見直しによる単価UPや前期末に不採算部門(フィットネスクラブ)を譲渡したことにより収益性が改善。賃貸用不動産2棟を譲渡し、不動産事業から撤退。

ゴルフ場部門において、コース管理維持費等の経費増が見込まれるものの、一人予約の拡充や若年層向けにSNSやWEBなどによる集客強化の取り組みにより、来場者数の増加を見込む。

項目	2024年度(実績)	2025年度(予想)
売上高	396,804千円 (対前期 ▲81,953千円) ▼	416,300千円 (対前期 +19,495千円) ▲
営業利益	79,327千円 (対前期 +5,834千円) ▲	76,462千円 (対前期 ▲2,865千円) ▼

01 木材事業のボトルネックを解消



02 ハウス・エコ事業の強化 ~木材事業に続く収益の柱として成長を加速させる~

重量鉄骨 生産能力増強

自動溶接機等の導入を計画

約15%UP

オービスグループの一員となり、財務の安定化に加え、人材の採用が計画どおりに進捗。

オービスの広範囲な営業網を通じて、受注の拡大を図る。

重量鉄骨案件の内製化によるコスト削減を実現、利益率の向上を図る。

寿鉄工が講師となり重量鉄骨に関する研修を計画的に実施、専門的なスキルや知識の向上を図る。

スケールメリットを共有し、相互に購買力・収益力を高める。

現在進行中である中期経営計画「NEXT STEP 10」の最終年度(2027年10月期)の数値目標を上回る(ハウス・エコ事業)見込であることから、2025年10月期を終えた後に、**当該中期経営計画全体の見直しを検討**

売上高

年度	売上高
24/10 (実績)	3,251
25/10 (予想)	5,052
27/10 (計画)	4,400

重量鉄骨規模の売上高

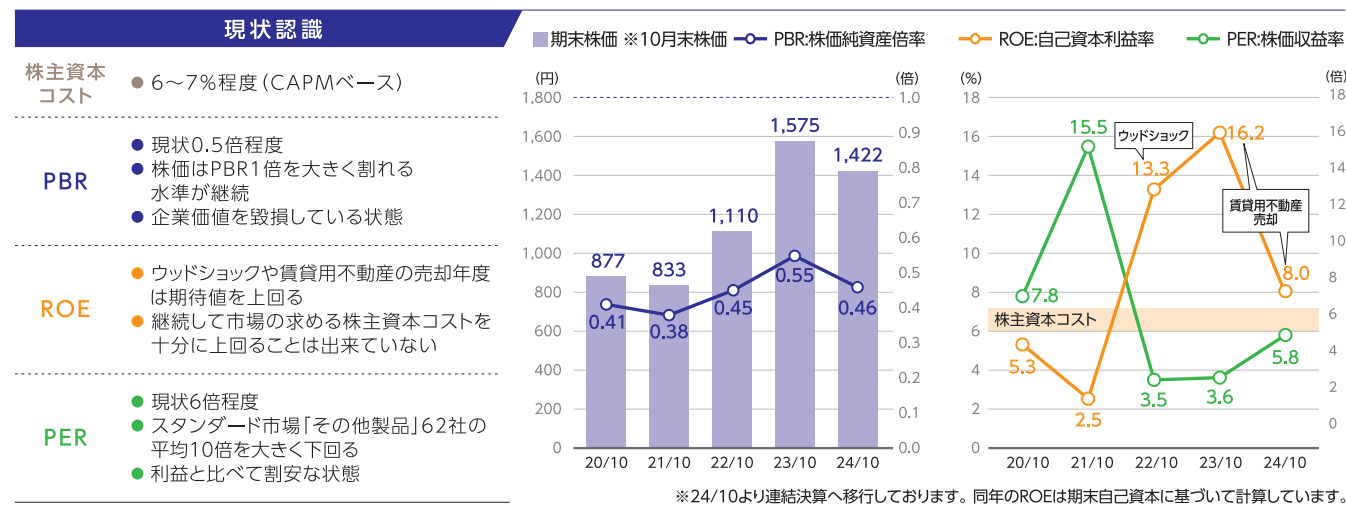
年度	重量鉄骨規模の売上高
24/10 (実績)	529
25/10 (予想)	1,700
27/10 (計画)	2,000

営業利益

年度	営業利益
24/10 (実績)	145
25/10 (予想)	310
27/10 (計画)	310

※ 本社費用等配分前で記載しております。《単位百万円》

03 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 ~現状認識~ ~取組施策~



取組む施策	方針・指標	改善
成長分野への投資と稼ぐ力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 木材事業において、私たちの特色である「小ロット・多品種対応」に特化。今後成長が期待される「非住宅分野」で使用される製品を拡販、「稼ぐ力」を強化。 ● ハウス・エコ事業において、培ってきた技術力・提案力を一層磨いてお客様のニーズに応える。寿鉄工株式会社のノウハウを活用、高難度で付加価値の高い製品の受注拡大を目指す。積極的な設備投資に加え、M&Aを視野に入れた事業規模の拡大を図る。 	ROE向上
資産の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 政策保有株式の保有割合は、連結純資産額の5%以下であるが、段階的に売却を進める。売却資産は、通常設備投資に加え、DX化などの戦略投資、株主還元へ配分。 ● M&Aなどの大規模投資には必要に応じて長期借入による調達を活用、最適資本構成を目指す。 ● 非事業遊休資産は、記載すべき重要なものはなく、既に太陽光発電所として稼働済み。 	×
資本構成に対する考え方と配当政策	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務の健全性等を勘案した結果、最適な資本構成として連結自己資本比率50%超えを目指す。 ● 連結自己資本比率50%を達成した場合、配当性向を現状の25%から30%以上へ引き上げを検討。 	PER改善
ステークホルダー満足への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 時価総額25億円前後の小型株である当社は、個人投資家が売買の中心。特に、個人投資家に対するIR活動が重要と認識。従来の通期決算説明資料の作成に加え、半期時点においても決算説明資料を作成する。 ● 株主・投資家との対話の強化、情報開示の拡充、個人投資家セミナー実施、スモールミーティングの実施によりIR活動を更に強化。 	PBR向上

株主資本コスト(6~7%程度と認識)を上回るROEを継続して達成し、2027年10月期(NEXT STEP 10の最終年度)PBR1倍超を目指します。